

当市では、これまで各種スポーツ競技において数々の優秀な選手を輩出してきた歴史があり、多くの競技において施設が整っていた背景があります。また、日本製鉄(株)北日本製鉄所釜石地区所有のスポーツ施設を、市に譲渡され市営化を図るなど各種競技の環境を維持してきた経緯があります。

2011年に起きた東日本大震災の影響により生活環境が一変し、発災から約10年を要し復興整備が進められました。

しかしながら、この影響により、釜石陸上競技場及びテニスコートが復興事業等により用途廃止され、一部競技に係る環境が未整備のままとなっております。

スポーツ愛好家や各種競技団体からは、震災前の施設を再整備する声があり、今後の新たな整備が課題となっております。現在当市においては、人口減少が著しく3万人を切る状況にあり、高齢化率も40%に達し、少子高齢化が著しく、財政状況も決して安定している状況ではありません。このような背景において、既存施設の維持及び新規施設の整備について着地点を見出すことが重要となっております。

1. 既存スポーツ施設の維持に係る課題

①釜石球技場の人工芝張替え修繕

震災後に、釜石陸上競技場にFIFA等の支援により人工芝グラウンド2面及びクラブハウスを整備。震災直後は沿岸地区の児童がサッカーやラグビーをする場がほぼ無かったことから利用率が多くなっていた。整備後10年が経過し、一部人工芝が経年劣化により張り替える時期に迫ってきている。

②釜石球技場・平田公園野球場照明の切り替え

両施設はナイター用して照明設備が整っているものの、水銀灯を使用しているが、今後水銀灯そのものの生産が終え、在庫限りの扱いとなっている。また、消費電力も大きくLED照明がスタンダードとなっている等の背景を踏まえ、施設の切り替えを予定している。

③市営プール維持費の増

昭和43年(1968年)に設置された当施設は、既に半世紀以上経過している。これまで部分改修を重ねてきている。最近では屋外の幼児用プールの地盤が若干下がったことを受け地質調査等を行い、今後大きな地盤の変化は想定されないが、利用者の安全を第一に考慮し幼児用プールのみ廃止とした。

④中妻体育館の今後の扱い

2. 新規スポーツ施設の整備

別紙カルテのとおり